

令和2年度 3学期 始業式 校長式辞

新型コロナウイルスの影響で、例年と比べ、家庭の中で静かに、穏やかな年末年始を過ごした者の多かった冬休みが終わり、学校はいよいよ今日から、今年度最後の学期である、3学期が始まります。冬休み中、事故もなく、朝、元気に登校するみなさんの姿を見ることができたことを嬉しく思います。

国内事情では、みなさんもニュースで知っていると思いますが、昨日、新型コロナウイルスへの対応のための、緊急事態宣言が、埼玉県を含む一都三県に発令されました。今回の緊急事態宣言で、学校が昨年3月のように、すぐに休校になることはありません。来週には、生徒のみなさんや保護者のみな様に、当面の具体的な方針が示されると思います。今、世界中の人々が新型コロナウイルスを恐れ、そして、科学や医学の最前線では、このウイルスと戦おうと様々な研究が進められています。また、医療に従事する方々は、年末年始も休みを返上して、このコロナウイルスをはじめ、病気や怪我で苦しんでいる人のために、命を懸けて働いてくれています。いま、私達がしなければならないことは、これから先の日々において、感染しない、感染させないために最善の努力をすることです。そうすることが、みなさんはもちろん、みなさんの大切な家族を守ることにつながるのです。

また、私達が医療に従事している方々へできる、感謝とエールの一番の形は、私たちが感染しない、感染させない努力をすることなのです。しかし、ウイルスは目には見えない強敵です。いつ、誰が感染してもおかしくはなく、気を付けていた上で感染してしまってもその人を責めてはいけません。私達が具体的にどんなことに注意するのは、この後、担任の先生や顧問の先生、保健室の先生から聴いてください。

さて、今日は、新年を迎え、心新たにがんばろうという気持ちに満ちたみなさんに、考えてもらいたいと思うことをお話しします。テーマは、「既成概念を打ち破る」です。みなさんは、アスファルトのすき間にポツンと咲く小さな花や草を、どんな思いで見ますか。「狭くて可哀想」「懸命に頑張っている」などと思いがちです。一見、か弱い外見でありながら、堅いコンクリートやアスファルトにも負けずに根を下ろす植物のパワーには、目を見張らせるものがあります。狭い場所ではなく、広々とした場所で生えればいいのに、なんでわざわざ、そんな狭いすき間を住み処に選ぶのかと思いますが、そのすき間こそ植物にとって、居心地の良い幸福な場所で、楽園なのだそうです。広々とした日当たりの良い場所には、他の植物も生えていて、互いに光を求めて背を高く伸ばすなどの生存競争が起きます。すき間や割れ目なら他の植物が入り込む余地がなく、日差し

を独り占めにでき、アスファルトにより水の蒸発が押さえられたり、雨水が割れ目に流れ込んだりして、水も独り占めにできる、まさに天国のような環境になるのだそうです。私たち人間から見ると「居心地が悪い」と思われていた場所が、植物にとっては、「居心地の良い」ものだったのです。これからの時代は、これまで多くの人が正しいと考えていた見方や考え方から一旦離れ、新しい視点に立った居心地の良さを見つけることが大切なのかも知れません。

人は誰でもそうなのですが、中学生である生徒諸君は特に、心のどこかで、自分は他人からどう見られているのか、どう思われているのか。他人の物差しや世間の基準で自分の生き方や在り方を考えることがあります。それは無意識のうちに、今まで多くの人に正しいと考えられてきた、固定観念や既成概念にとらわれているからなのかも知れません。君たち中学生は、義務教育終了後の長い人生を考え、夢を膨らませるだけでなく、悩みや不安と共に3年間を過ごすものです。そこで、後悔をしない自分にとっての本当の生き方、考え方を持つためには、自分の物差しを持つことが必要なのです。そのためには、なりたい自分へ近づくために、自分との約束や誓いを立て、自分を信じ、自分を励まし続けながら、目標を達成するための取り組みを続けることが大切なのです。三学期は、まとめの学期であるとともに、春からのあたらしい生活のための準備の学期でもあります。アスファルトのすき間に咲く、草花のように、自分らしい生き方や居心地の良い場所を探すことを、今年目標の一つにすることを期待しています。

三学期、健康に気をつけ、元気にがんばりましょう。

令和3年1月8日 春日部市立飯沼中学校長